

令和3年度 地域包括支援センターの認知症施策に関する取組

資料 2

	目 標	具体的な取り組み	実績	課題・今後の方向性
第一包括	認知症になっても、最後まで住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる地域づくりを目指します。	若い世代や職域サポーターを養成する。	認知症サポーター養成講座を4回実施。 (神座小、三小、一小児童クラブ、ろうきん) ※3月に二小児童クラブでの実施を予定。	今年度開催した団体に再度声掛けをしていく。また、企業に講座申込書を配布する等、職域サポーターの養成に力を入れていく。
		みまもりあいアプリを活用して搜索模擬訓練を実施する。	稲荷町で1月開催を予定していたが、感染拡大の影響で見合わせとなっている。	稲荷町で開催後、他地区での開催を検討していく。
		チームオレンジ活動を推進する。	①既存のオレンジカフェの訪問や交流を計画していたが、コロナ禍でオレンジカフェが休止しているため実施できなかった。 ②オレンジカフェを新設することはできなかった。 ③「チームオレンジしまいち」を結成し、連絡会を毎月開催している。	①既存のオレンジカフェの開催状況を随時確認していく。 ②③引き続きオレンジカフェ新設に向けて準備を進めていく。

	目 標	具体的な取り組み	実績	課題・今後の方向性
第 二 包 括	認知症の方が暮らしやすい地域を目指し共生と予防ができるように働きかけます。	チームオレンジ「きずな」の活動として企業と連携して認知症予防や介護予防についてリモートで地域をつなぎ情報発信を行う。	令和4年1月20日、大草・落合・オレンジカフェをリモートでつなぎ、活動紹介や薬剤師による講話を取り入れた活動ができた。	内容を充実させていく必要がある。 来年度も継続して行うとともに、ゲームなどの活動を取り入れていきたい。
		認知症患者や介護者及び地域の方が気軽に相談できる機会を作る	認知症等に関わらず、大草住宅にて月1回出張相談会の立ち上げができた。座談会形式で、日ごろの困りごとなどを話す機会を持つことができた。	買い物の支援や居場所が欲しい等の課題が出てきている。 頻度は少ないかもしれないが、定期開催に努め地域課題の改善に努めるとともに、他の地域でも取り入れていけるようにする。
		第二中学校区の企業を中心に認知症サポーター養成講座の案内を配布するとともに年3回実施をする。	年3回の認知症サポーター養成講座の開催は、第四小学校、大津小学校、第二中学校で開催することができた。 コロナ禍で企業へのお願いが難しい状況だった。	コロナ禍で、通常開催が難しいことがある。 コロナ禍でも対応できる方法（リモート開催）なども活用していく。 企業に向けた案内を作成し、お願いしていく。

	目 標	具体的な取り組み	実績	課題・今後の方向性
六 合 包 括	住民の方への認知症の理解のために普及活動を行い、認知症の方が住みやすい地域にする。	認知症の基礎知識を伝え、地域で見守る応援者として活動できる機会を増やす。	認知症サポーター養成講座の開催がコロナの影響で実施できなかった。特に学校に関しては、社協を通して依頼したり直接夏休みに学校へ訪問したが、依頼はなかった。	認知症サポーター養成講座、キッズサポーターの育成が行えずに困っている。学校への進め方として、学童などから声をかけてみる。
		関係機関と連携し認知症の方や支える方々が気軽に集まったり相談できる場を紹介、提供する。	認知症カフェを公民館やウエルシア会場で行い、認知症のご本人とその夫の方が相談にきてくれた。	認知症カフェがコロナの影響で不定期開催になっている。今後、定期的を開催することで地域住民に周知され、相談しやすい場所が提供できるかと思われる。
初 倉 包 括	認知症になっても、地域で支えあいながら住み慣れた場所で生活できるよう支援します。	認知症の方、介護者が相談・交流できる機会をつくる。	①認知症カフェの開催(3回) ②はつくらこども食堂への高齢者参加の調整(独居：2人、グループホーム：2人)	①健康講座中心の内容で開催した。来年度も継続していく。 ②独居、グループホーム入居者の参加あり。今後、チームオレンジの活動として参加者を対象に絵本の読み聞かせを行っていく。
		幅広い世代に認知症を周知し、サポーターとして活動してもらう。	認知症サポーター養成講座の開催 ①区内2小学校(4年生)、1中学校(2年生)への講座開催 各1回 ②はつくらこども食堂スタッフ(10代～70代) 1回	①学校での開催では、参加型のプログラムを意識している。中学校での開催では、生徒自らが認知症の方への対応を考える構成とした。来年度も継続していく。

	目 標	具体的な取り組み	実績	課題・今後の方向性
金谷包括	認知症になっても住み慣れた地域でその人らしく安心して暮らせる地域づくりを目指します。	認知症サポーターを増やし地域での理解を深められるようにするとともに専門職と連携をとり認知症患者と介護者が相談、交流する場を作る	①認知症サポーター養成講座：3回実施 (金谷地区商店・ウェルシア・金谷地区社協) ②チーム茶つきり連絡会：2回開催 ③高齢者サロン＆茶つきりカフェ：1回開催 ④チーム茶つきりメンバーによる高齢者サロンへの協力：1回実施	認知症サポーターを今後も増やし、活動の場を広げ、地域の見守り・支援体制づくりをしていく。また、新型コロナウイルスの影響で予定していた認知症カフェの新規立ち上げができなかった。チーム茶つきりがコロナ禍でもできる活動を考えて実施していきたい。
		福祉教育を通して高齢者への理解と支援の必要性を若い世代に伝えていく	①認知症キッズサポーター養成講座：2回実施 (ひだまり教室、子供会) ②金谷包括のポスター作成依頼・金谷地区内公民館に掲示：金谷高校に依頼した	若い世代のサポーターを増やし、今後、若いサポーターが普段の生活の中で高齢者の見守り支援を行う体制づくりを目指したい。
川根包括	認知症の理解を深めるための周知・啓発活動を行い、多世代で支え合う地域づくりを推進します。	様々な世代に認知症に対する正しい知識と理解を広げ、地域の担い手づくりに取り組む。	認知症サポーター養成講座の開催(3回) ・笹間しまトレ ・川根小学校4年生 ・原・八坂あがりはな(しまトレ)	講座の実施先の新規開拓や職域を広げる必要がある。案内文やチラシを作成し周知を行いたい。 比較的若い世代へ普及啓発を行ってきたい。
		認知症の方を地域で支える体制づくりをチームオレンジ、認知症キャラバンメイト、認知症サポーターと共に行う。	キャラバンメイト連絡会(1回) ・新規キャラバンメイト1名加入。	活動機会が少ないため、定期的に意見交換や現状報告ができる場を設けていく。
		認知症カフェへ参加し、認知症に関する周知活動及び相談支援を行う。	①認知症カフェへ参加(6回) ・緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の適用に伴い計4回中止をした月あり。 ②出張相談(1回)	新たな担い手を発掘していく。 認知症カフェの新規立ち上げや出張型の相談を開催し、各地域で幅広くニーズ把握を行いたい。

実績は令和4年1月末までの件数